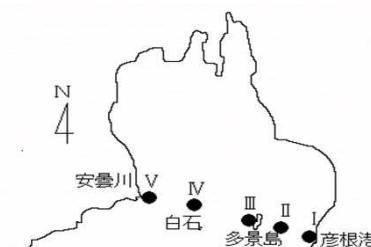


# 琵琶湖定点定期観測結果速報(令和2年2月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和2年2月17日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点  
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町  
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

## 調査結果

平均値 … 5地点の平均値

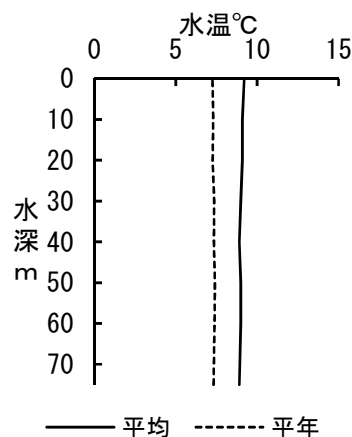
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2009年～2018年(平成21年～平成30年)の同時期調査の平均値

1. 透明度                                      2月平均値    5.8m                                      平年値                                      6.6m

## 2. 湖水温 (°C)

水深(m)	2月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	9.2	7.3	+1.9
10	9.1	7.3	+1.8
20	9.1	7.3	+1.8
30	9.0	7.4	+1.6
40	8.9	7.3	+1.6
50	9.0	7.4	+1.6
60	9.0	7.4	+1.6
75	8.9	7.3	+1.6



## 3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
1月下旬	9.4	6.8	+2.6
2月上旬	8.4	6.6	+1.8
2月中旬	8.8	6.7	+2.1

#### 4. プランクトン沈殿量 (ml/m<sup>3</sup>)

水層 (m)	2月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	3.9	3.7	+0.2
10~20	1.8	1.5	+0.3
20~40	1.3	1.3	+0.0
40~75	1.0	0.9	+0.1

(プランクトンネットNXX14使用)

#### 5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で*Micrasterias hardyi*(ミクラステリアス:緑藻)が量的に最も多く確認されたほか、地点2~4において細胞数では*Aulacoseira nipponica*(アウラコセイラ ニッポニカ:珪藻)が最も多く確認された。

動物プランクトンについては、地点2~5で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が個体数で最も多く確認された。地点Iでは動物プランクトンの数が他の地点に比較して全体的に少なかった。



*Micrasterias hardyi*



*Aulacoseira nipponica*



ノープリウス期幼生

#### 6. DO (溶存酸素濃度 : mg/l)

水深 (m)	2月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.41	(102.2)	11.17	(95.6)	-0.76	(+6.6)
10	10.26	(100.8)	11.03	(94.7)	-0.77	(+6.1)
20	10.00	(98.3)	10.83	(93.2)	-0.83	(+5.1)
30	10.08	(97.9)	10.81	(92.9)	-0.73	(+5.0)
75	8.10	(71.5)	9.99	(85.7)	-1.89	(-14.2)